

**大蔵永常** 農学者。江戸中期に合理的農業技術に関する多くの著作を成し、明治維新後に大きく評価された。

おおくらながつね

久留米藩工事1768 = 豊後国日田の農家に生まれる。通称は徳兵衛。

**田沼意次老中**1772 = 4歳 :

..... 1777 = 9歳 :

幼少にして学問に志したが、父に厳禁され、生蠟問屋に奉公に出た。

蘭学階梯・・・1783 = 15歳 : この年から始まり、

**田沼意次失脚**1786 = 18歳 : この年まで続いた<天明の大飢饉>の体験に衝撃を受け、

**寛政改革始**・1787 = 19歳 : この頃、郷里を出て、

九州各地を遍歴し、製糖・製紙・琉球蘭栽培などの技術を学ぶ。

**松平定信引退**1793 = 25歳 :

杉ノ木 正月・1794 = 26歳 : 長崎から船で大坂に出、

写案..... 1795 = 27歳 :

結婚するとともに、苗の取次商として畿内各地を回り、当時の先進的農業技術を見聞、

最初の著作「農家益」をまとめ、摂津の代官の家来奥野辰之の力添えて、

一九**膝栗毛始**1802 = 34歳 : \*永常と名乗って「農家益」を出版、非常な評判となる。

**ザ 刀来航**・1804 = 36歳 : 「老農茶話」を著す。

特用作物の栽培・加工技術などの普及に努める。

..... 1810 = 42歳 : 意を決して江戸に出、

**ゴウゴウ 二ノ拿捕** 1811 = 43歳 : 「農家益」の後編を出版。

浮世床..... 1813 = 45歳 :

..... 1815 = 47歳 : 大坂に戻り、丹後由良で隠岐犁を見て、

**水野忠成老中**1818 = 50歳 : 「農家益続編」を著す。

**英船浦賀来航**1822 = 54歳 : \*最も優れたものとされる「農具便利論」3巻を刊行。

**シノギ 山鳴滝塾**1824 = 56歳 : 土佐の二期作を紹介した「再種方」などを出版するうち、江戸の学者の間で知られるようになり、

異国船打払令1825 = 57歳 : 再び、江戸に出て下谷に居を構え、

..... 1826 = 58歳 : 「除蝗録」出版、

以後、農書の著述に専念し、合理的農業技術、とくに特用作物の栽培・加工技術の普及に努める。

**シノギ 山追放**・1829 = 61歳 : 菜種について記した「油菜録」出版、

**富嶽三十六景**1831 = 63歳 :

天保大飢饉始1833 = 65歳 : 綿の栽培から取引まで述べた「綿圃要務」刊行、

高島砲術..... 1834 = 66歳 : 渡辺崋山のすすめで、三河田原藩の産物取立役となったが、

..... 1836 = 68歳 : 菜種から油をとって加工することを説明した「製油録」刊行、

**大塩平八郎乱**1837 = 69歳 :

**蚕社の獄**・1839 = 71歳 : <蚕社の獄>による崋山の国元蟄居と同時に解雇される。

**勸進帳初演**・1840 = 72歳 :

天保改革弾圧1842 = 74歳 : \*水野忠邦の後を受けて遠江国浜松藩の興産方となり、代表作「広益国産考」を刊行。

**阿部正弘首座**1845 = 77歳 : 忠邦の失脚後、

孝明天皇..... 1846 = 78歳 : 江戸に戻り、

なお著作を続けて生活の資を受けることに努め、

北斎没..... 1849 = 81歳 :

**桜田門外変**・1860 = 92歳 : この年没したともいうが、没年は不詳。

未刊5種を含む35種の著作を残したが、最初の「農家益」以外は当時あまり受け入れられず、明治になって大きく評価されるようになった。

さえら伝記ライブラリ「日本の農業につした人々」、日本人物誌叢書「日本農学者評伝」、「人づくり風土記」(愛知)(大分)、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、「目でみる日本人物百科」、日本の古典名著、